

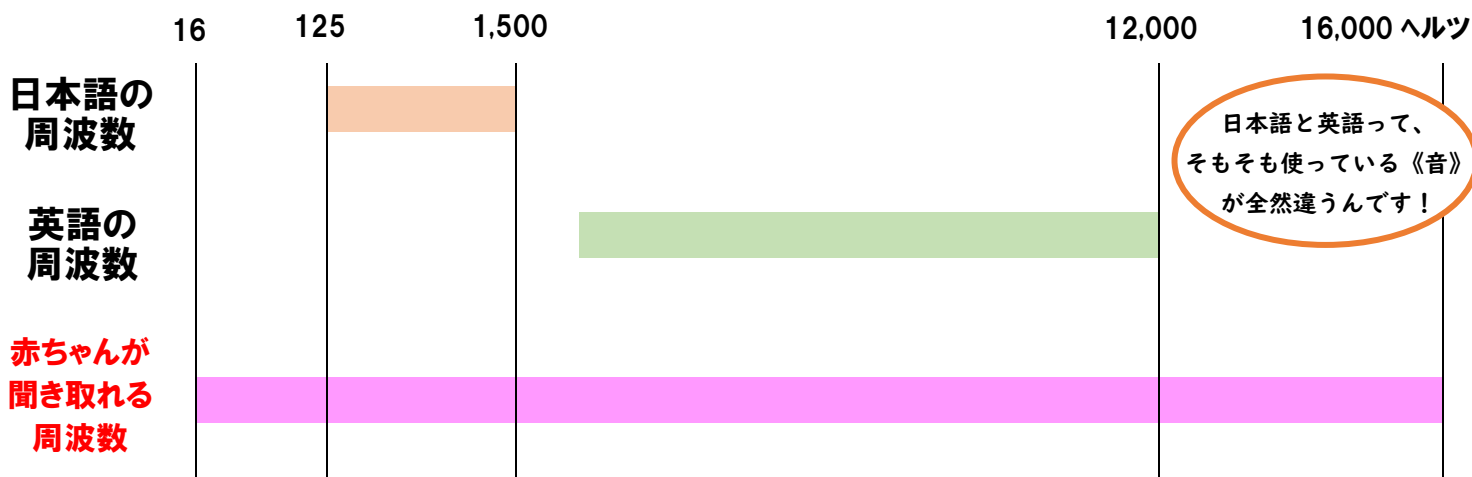
英語は まだ早い

そう思ったことはありませんか？

「聞こえる」を紐解く上で外せない要素「周波数」。これってなんだかご存じですか？

1秒間に100回振動するのが100ヘルツ。その振動が耳に伝わり、聴覚神経を通して「聞こえる」になります。人間の耳が聞き取れる周波数(パスバンド)は16~16,000ヘルツ。ただし、ことばによって優先的に使われる周波数に大きな違いがあるといわれています。**例えば、日本語は125~1,500ヘルツ、英語は2,000~12,000ヘルツ**と、大きな差があるのは一目瞭然ですね。「英語の音が聞き取りづらい」要因は、実はここにあったんです。

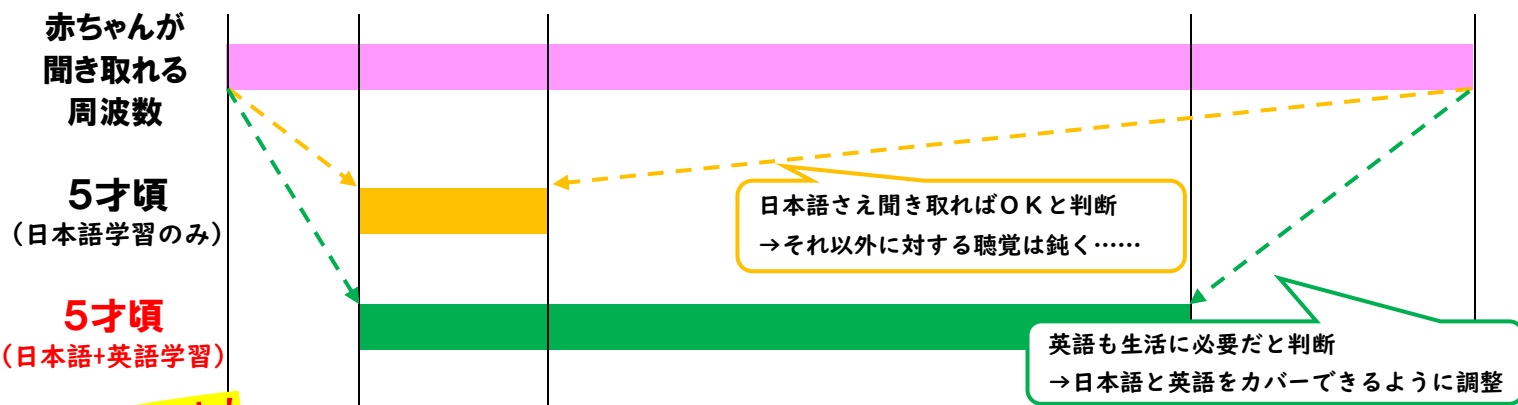
ちなみに、**生まれたばかりの赤ちゃんの耳だけは、全ての周波数をカバーしているんです！**下の図は、日本語・英語・赤ちゃんの聴覚で使用する周波数を表したものです。



しかし、そんな赤ちゃんの「聴覚黄金期」はずっとは続きません。

赤ちゃんはそれまでの間に、自分の周囲の音を聞いて「どこからどこまでの範囲の音を聞き取れば不自由なく生活できるのか」を本能で判断し、その範囲に合わせて自身の聴覚を《調整》します。

この聴覚の《調整》が完了するのが、**おおよそ5才頃**とされています。そのため、5才までに、**赤ちゃんに「英語は自分の生活に必要な音」「生活に当たり前のもの」と認識してもらうことが重要です。**これが「英語は早ければ早いほどいい」と言われている理由の1つなのです。



ワンポイント！

乳児期から、英語を「生活に当たり前のもの」と認識してもらうことには、もう1つ、大きなメリットがあります。3才頃には周囲への認識能力が高くなり、「知らないものは怖い」という感情が生まれてきます。子どもたちにとって英語はもちろん未知のものですから、子どもたちが英語(知らないもの・わからないもの)を受け入れられず、結果、スムーズに英語学習をスタートできないケースも少なくないのです。

英語に慣れ親しんでほしいと思う方こそ、1, 2才頃からのスタートがベストです！